

短期研修報告書

記入 | 2023年 4月
所属 & 学年 | 文学部 2年生

留学先大学 (国名)	国立台湾大学(台湾)
短期研修のプログラム名	特別研修 国立台湾大学
留学した期間	2023年3月1日~22日

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

海外留学室のホームページでこの研修を知りました。国立台湾大学への長期留学を考えていたため、語学だけでなく台湾の文化の授業もあり、国立台湾大学の学生の方とフィールドワークにも行けるこの研修はよい下見の機会にもなると考えたため参加を決めました。

往復の飛行機は旅行会社の方にとっていただき、宿泊先は海外留学室の先生と相談しながら自分たちで決めました。プログラムの申し込みは国立台湾大学のフォームに情報を入力していく形で、手続きで困った際にはメールで迅速に対応してもらえました。また、中国語のリーディングやライティングのテストを期日までに受けたあと、時間を指定されてオンラインでスピーキングテストが行われました。この結果に応じて現地での中国語クラスが振り分けられました。

特に中国語対策はせずに訪れましたが、HSK(漢語水平考試)の対策も兼ねて問題集を解いてから行きました。ここで目にした文法や単語は台湾でも使うことがあったので、勉強しておいてよかったと思いました。YouTubeの台湾生活でよく使われるフレーズなどの動画も役に立ちました。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

平日は毎日午前中に3時間程度中国語の授業がありました。先生は授業のほぼすべてを中国語で行うため、初めは指示された内容さえ理解できず困りましたが、次第に分かるようになっていきました。日本の学校と似た形式で、先生が前に立ってスクリーンに文法事項や問題を映し出して、指名された生徒が答える方式でした。とにかく何度も指名されて必ず中国語で答えなければならず、先生も基本的には褒めてくれつつ文法や発音を訂正してくれるため、中国語を話すことへの抵抗感は減りました。毎授業でペアワークがあり毎回違う相手と組むので、クラスメイトとも仲良くなれました。

今回のプログラムの参加者は25人で、24人が日本の大学生、1人がアメリカの社会人学生の方でした。クラスメイトとの会話はほとんど日本語でしたが、違う大学の子と仲良くなることができたほか、昼休みに中国語しか喋れないランチをしよう！というチャレンジを一緒にしたりと、中国語を勉強するモチベーションを保つことができるとてもよい環境でした。帰国後もSNSで連絡を取り合ったり、日本で会ったりするような友人ができました。学校が終わった15時頃以降は、毎日クラスメイトと出かけたりしていました。

プログラムには国立台湾大学の学生チューターさんがついてくれて、様々な場面で手助けをしてくれました。初日にアイスブレイキングゲームを行ってくれたり、書道や切り紙、マージャンなどの台湾文化のプログラムの司会・解説をしてくれたり、実際に市街地で行うフ

フィールドワークで英語と中国語を使ってガイドをしてくれたり、課題の作文や最終プレゼンテーションの添削をしてくれたりと、とても身近で頼れる存在でした。

他にも国立台湾大学の教授 4 人がかわるがわる授業をしてくださり、それぞれ台湾と日本の社会の比較や台湾茶の製法、台湾の観光、博物館などの内容でした。社会学や農学、地理学、博物館学の専門家の授業を英語で受けられたことはとても貴重な経験になりました。

クラスメイトの誘いで日本舞踊部の見学に行ったり、大学の施設を利用したりと、実際に台湾大学の学生になったかのような学校生活を送ることができました。

授業やアクティビティはどれも洗練されていて、これ以上なく充実した学校生活を送ることができました。

3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

最初の 1 週間は大学から電車で 10 分程度のホテルに滞在し、その後の 2 週間は民間の学生寮で生活していました。コロナウイルス対策のため、到着後 1 週間はホテルの個室で過ごすというルールがあったためです。滞在したホテルや学生寮はとても清潔でしたし、街中もゴミが落ちていないということはあまりなく、過ごしやすい環境でした。

特に、私は寮に入ってよかったと感じています。同世代の学生の方が多く、共用キッチンでロシア人やインド人と仲良くなったり、寮からのバスで知り合った日本人と休日に出かけたり台湾生活に役立つ情報をもらったりと、今回の留学で忘れられない経験のひとつになりました。もしこの研修に参加する後輩がいれば、寮に入ることをおすすめしたいです。

物価は日本とあまり変わらないか少し安いという印象でした。ドラッグストアやコンビニに行く商品と商品の半分程度は日本製品なのではないかと感じるほどでした。ただ、寮にヘアドライヤーがなかったため現地で購入しました。持参すべきだったとは感じますが、日本企業の商品が安価で売っていた上、コンセントが日本と同じなので買ったことは後悔していません。大体のものは台湾で手に入るの、今回の滞在中に特に困ったことはありませんでした。

食事は日本人の口に合うものが多いのではないかと感じました。個人的には「なにを食べてもおいしい」と感じており、食費は日本と比べ物にならないくらい安く済ませられます。台北には至るところに飲食店や屋台があり、朝食から夜食まですべての時間帯で出来たての食べ物が手に入ります。台湾のローカルフードはもちろん、マクドナルドやケンタッキー、モスバーガー、サイゼリヤ、コメダ珈琲、日本のラーメン店など様々なお店があるため、たとえ台湾の料理が口に合わなかったとしても多様な食事の選択肢から好みに合うものを選ぶことができると思います。屋台の食べ物は衛生面に注意するように事前に言われていたため注意はしていましたが、結果として食べ物で体調を崩すことはありませんでした。ただ、クラスメイトが生魚にあたって救急病院にかかっていたので、やはり注意は必要であると感じました。

今回訪れた 3 月は雨も少なく、気候もちょうどよい季節でした。ただ、夜は冷え込んだりバスの中が異様に寒かったりしたことがあったので、防寒具は持って行ってよかったと感じました。

台北は公共交通機関がとても発達しており、バスと地下鉄でほとんどの場所に行くことができます。しかしバスは時刻表通りに運行するという考えはあまりないようで、予定 15 分前に発車したりするなどとても困りました。大切な用事がある際は地下鉄を利用すべきです。

中国語に不慣れではありましたが、台湾の人は親切な人が多く、店員さんなどでも一生懸命話そうとすれば耳を傾けてくれる人が多くて嬉しかったです。次第に慣れてきて注文は中国語でできるようになりましたが、台湾は英語が話せる人が多かったので、意思疎通が全く取れず困るということはありませんでした。

毎日が刺激的で記録しておきたかったほか、外国でテンションが上がってしまって散財してしまうことを防ぐ目的もあり、私は毎晩日記と家計簿をつけていました。一日を振り返ることで気持ちも落ち着きましたし、帰国後もその日の出来事を思い出すことができるので、この習慣は今回の留学を充実させるためにとても役立ったと個人的に感じています。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

パスポートは常に鞆の深いところに入れて持ち歩き、鞆のファスナーを必ず閉めるなど盗難に遭わないように気を付けていました。お金はその日に使うくらいの金額をメインの財布に入れ、それ以外はサブの財布に入れて、万一盗難に遭った際のリスクを分散させました。

私は運よく盗難や怖い場面に遭遇することはありませんでしたが、クラスメイトが乗ったタクシーはいわゆるぼったくりタクシーだったほか、運転手が檳榔を噛みながら運転し、食べないかと勧められて怖かったと話していました。危険を感じたらすぐに逃げる必要だと感じました。また、街の至るところに檳榔を販売する店があり、食べている人もよく見かけたのですが、手を出さない方がいいと感じたので近づかないようにしていました。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

今回この研修に参加できてよかったと心から思っています。サポートしてくれた家族や海外留学室の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。大変だと感じることもありましたが、台湾で出会った人から多くのことを学ぶことができ、一生の思い出になりました。

親元を離れて一人海外で生活することには不安もありましたが、大抵のことはなんとかなるということを学びました。台湾は日本人にとって比較的暮らしやすい国であるとはいえ不測の事態はもちろん起こりましたし、そのほとんどは自分で調べたり周囲の人に頼ることで乗り越えられるものでした。危険を回避するにはどうしたらよいか考え、それでもなにか起きた場合は自分で対処しなくてはならないという状況に身を置いたことで、自分で考えて行動するという貴重な経験ができました。

留学に行くか迷っていて、その主な理由が「不安」なら、勢いに任せて身を投じてみるのも面白いと思います。もちろん留学には時間もお金もかかりますが、異国の地で過ごすという状況になると「せっかく日本を離れてここまで来たのだから頑張ろう」という前向きなパワーが自然に湧いてくるように感じました。私も迷いや不安がある中で行った今回の留学で一生の宝物と言えるような経験ができたので、留学を迷っている人がいたら「とりあえず行ってみる」ことをおすすめしたいです。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	101,940 円	往復航空券、手数料(ビザは必要なし)
海外旅行保険	8,256 円	大学で申し込み
授業料（教材費含）	270,300 円	中国語授業、文化プログラム参加費すべて含む
滞在費（寮費など）	76,024 円	ホテル約 4 万円(1 週間)、寮約 3 万円(2 週間)、空港ホテル約 5,000 円
食費	20,000 円	夜市、学食、街中の飲食店、コンビニなど
交通費	10,000 円	悠游卡
その他（小遣い、通信費など）	45,000 円	SIM カード、生活用品、観光、お土産等
計	531,520 円	

自由記述欄



① 国立台湾大学

施設がとても充実しており、短期留学の学生でも学生証があれば使用することができる。

図書館の自習室はシステムで席が割り振られ、集中して勉強できる。

大学の周辺には市場や商店街があるほか、構内にも多くの飲食店があるため昼食の選択肢が多い。



② 食事

安くておいしい。台湾のローカルなご飯として有名な滷肉飯は 120 円程度で食べられる。

現地スーパーで台湾ビールやパイナップルなどを購入した。

小籠包や酸辣湯など日本のものとは少し味が異なるほか、日本にある店でも商品のラインナップが異なるなど、食に関する発見が多く興味深かった。



